

30【P2】 I -342

海洋渦鞭毛藻 *Amphidinium* sp.より単離した新規マクロリド Amphidinolide Y の構造
○泉井 直子¹, 津田 正史¹, 新保 和高¹, 佐藤 昌昭¹, 富士 江里², 川端 潤², 小林 淳一¹(¹北大院薬,²北大院農)

【目的】海洋渦鞭毛藻 *Amphidinium* sp.より新規マクロリド Amphidinolide Y (**1**)を単離し、その絶対立体配置を含めた構造を明らかにしたので報告する。

【実験・結果】沖縄・砂辺で採取したヒラムシより単離した渦鞭毛藻 *Amphidinium* sp.の培養藻体のトルエン/メタノール抽出物のトルエン可溶画分を、シリカゲルカラムおよび逆相HPLCで精製し、新規マクロリド Amphidinolide Y (**1**, 0.0007% wet wt.)を単離した。高分解能ESIMSより、**1**の分子式はC₂₆H₄₂O₆であると推定された。¹H NMRにおいて、**1**は6-ケト型 (**1a**) と6(9)-ヘミケタール型 (**1b**)の9:1の混合物であることが示唆された。**1a**の構造は、二次元NMRデータの詳細な解析により、新規17員環マクロリドであると推定した。また、結合定数およびNOESYスペクトルの詳細な解析により相対立体配置を明らかにした。**1**は、既に絶対立体配置の明らかになっている Amphidinolide X (**2**)に誘導化されたことより、共通の絶対立体配置を有していることが推定された。

【考察】化合物**1**には、培養腫瘍細胞に対して殺細胞活性が認められた。また、**1**は以前に単離した**2**の生合成前駆体であることが推定された。

